平成　24　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4272300254		
法人名	有限会社ウェルサポート		
事業所名	グループホーム「第二わらび苑」	ユニット名	
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西浜郷1622-63		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人　福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1　博多いわいビル2F
訪問調査日	平成２４年１０月２６日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営理念（みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく）に沿って、利用者や家族の思いをしっかりと受け止め活動しています。日頃から一生懸命の気持ちを忘れず、地域の人や関係機関との連携も取れて、当事業所も地域に着実に根を張って来たと実感しています。職員も苑内外の研修会などに積極的に参加し、よりよいケアに向けて取り組んでおり、着実にスキルアップしてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ「第二わらび苑」”はホーム内の温かさとﾁｰﾑﾜｰｸが年々増している。ホーム長の思いを両ユニットの管理者が引き継ぎ、職員個々の良さを引き出しながらチーム作りをされており、得意分野のみならず、苦手な分野にも積極的に取り組む姿勢が見られている。ご利用者の笑顔も優しく、ご利用者同士の助け合いも増えており、安心して“わらび苑２”で生活されているご様子が伺えた。ホーム長が育てている花々を眺めながら、ホーム周辺を散歩される姿も日常で、“自立支援”の視点も職員間に浸透し、お茶を飲みたい時は、ご自分で準備する姿も見られている。“できること・できそうなこと”のアセスメントが丁寧で、職員はじっくりと待ち、ご利用者自身が自主的に行動できる雰囲気が作られている。食事量の少ない方にも職員が根気強く声かけし、笑顔で介助をするうちに、ご自分で食べられるようになった方もおられ、管理者が山から伐ってこられた竹で器を作り、そうめんを楽しまれるなど、毎日をいかに楽しんで頂けるかを常に考えている。家族が一緒に洗い物をして下さったり、ｺｰﾋｰを自由に飲まれる雰囲気も作られ、“みんなで　いっしょに　ゆっくり　たのしく”と言う理念そのものの生活になっているホームであった。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初からの理念に沿い、ミーティングや日頃のケアの中で意識し、全職員で共有して日々の実践に努めている。	「みんなで、いっしょに、ゆっくり、たのしく」と言う理念のもと、“いっしょに”調理や掃除を行い、ドライブや散歩も楽しまれている。ご利用者の意向を大切にしながら、“待つケア”も続けられ、ご本人の“できること”を増やされている。ホーム長の思いは職員に伝わり、管理者・職員と協力して、ご利用者本位の関わりを続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、地域のお祭りや行事に参加したり、地域の学童クラブとの交流を行なっている。また、利用者と一緒にスーパーに買い物に行ったり、喫茶店などでお茶を飲んだりと、地域とのつながりを増やせるよう努めている。	近所の方とは馴染みの関係になっている。小学生が野菜を持ってきて下さったり、学童保育の子供たちとの交流では、一緒にお経を読んだり、七夕作りも楽しまれた。ホーム行事に地域の方も参加され、楽しいひと時を過ごされている。地域の方がギターの弾き語りをして下さり、ご利用者も一緒に歌を唄う機会も作られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は常に開かれており、あらゆる相談を受けたり、支援を行なえる体制をとっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、外部評価後は運営推進会議で結果報告を行なっている。また、会議で出てきた意見は、その都度話し合いサービス向上に努めている。	24年10月からホーム単独で運営推進会議を開催するようになった。今後も色々な企画を検討していく予定であり、ご利用者も一緒に和やかな集いになっている。ご利用者が釜めしを食べている映像を流したり、介護技術の実演を行う等、参加者からも「勉強になった。会議に来るのが楽しみ」と言う感想を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から地域全体の課題について話し合える関係があり、協働しながら取り組んでいる。	理事長は、地域の認知症地域支援体制構築等推進協議会のｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰであり、西海市と協力して、地域全体の課題解決に向けた取り組みを続けている。24年度の外部評価には西海市の方が同席して下さり、外部評価のひと時を確認頂ける機会も作られた。市の方とは顔馴染みであり、日々の情報交換もできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内で研修、ミーティングを行ない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者が身体拘束の外部研修を受講し、職員に伝達している。“身体拘束は虐待。例外はない”という理事長の考えを職員は理解しており、転倒の可能性がある方は、職員の見守りを徹底し、家族にも身体拘束はしない事と起こりうるリスクを説明している。ご利用者は自由にホーム周辺を散歩されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場内や職場外の虐待防止研修に参加して、虐待がないよう、また、虐待が見過ごされる事がないよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内や職場外の権利擁護、成年後見人制度の研修を受け、必要な場合はそれらを活用できるような体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書や重要事項説明書に提示し、契約前に充分に説明を行ない理解に努めている。また、不安や疑問がある時はいつでも説明を行ない、納得して頂けるよう努めている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や面会時に色々な話をし、その中から意見や要望が出てくるよう努めている。また、出てきた要望は職員間で共有し、出来る事は実施できるよう努めている。	家族とは電話で情報交換を行う事も多く、面会時も、ゆっくり居室で過ごして頂いている。お茶をお持ちして一緒に雑談する事もあり、健康面を含めて家族の心配な事や思いを伺っている。敬老会や家族会、夏祭りでも家族の協力を頂けており、家族の役割を発揮して頂ける環境作りに努めている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別に聞くように心がけている。利用者や職員にプラスになる提案は、反映できるように努めている。	職員のｱｲﾃﾞｱは着実に増えている。献立や排泄等に関する意見と共に、行事の提案や敬老会の出し物等のｱｲﾃﾞｱもﾐｰﾃｨﾝｸﾞで検討され、24年度の敬老会では、職員と家族の出し物“蝶々夫人”も大盛況であった。１人１人の職員に向き合い、管理者中心に職員の個人面談も行われ、職員個々の思いを聞く機会が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働けるように職員と話をしながら環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の新任研修や常勤職員研修、全職員での研修を実施している。また、西海地区認知症ケア研究会や西海市福祉施設連絡協議会の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海地区認知症ケア研究会や西海市福祉施設連絡協議会に加盟しており、積極的に参加して他事業所との研修や意見交換をし、サービス向上に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、入所当初に本人の生活歴、状態の把握に努め、少しでも安心して生活していただけるよう努めている。また、得た情報は職員間で共有出来るようミーティング、申し送りなど徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話をして、事業所が出来る事を説明し、家族に不安を与えず、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとって、今一番必要な物は何かを考える。それに応じたサービスを一緒に考えて対応していくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでは日々の生活の中で、職員と利用者が一緒になって料理や掃除をするなど、共に支えあって生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を十分に把握し、利用者の日々の暮らしや気付きなどの情報を共有し、一緒に本人を支えていくよう努めている。また、職員も家族に支えられ、良い関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者との会話の中や、家族からの聞き取りを行ない、本人にとっての大切な人や場所との関係継続に努めている。	家族や親戚から手紙が届いたり、電話で家族と話す機会も作られている。地元の浜や以前行かれたお店と共に、“こんぴらさん”や花まつり等の地域行事にもお連れし、ご利用者の笑顔が見られている。知人の方や家族もﾎｰﾑに来て下さり、家族が洗い物をして下さったり、ｺｰﾋｰを自由に飲まれる姿も見られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者、職員が一緒に食事をしたり、利用者同士で話を出来る場所（ソファ、玄関前ベンチ、居室など）を利用している。また、日中にみんなで体操やレクリエーションなどをして楽しんで過ごせるように支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも家族の方から野菜や果物をいただいたり、夏祭りに手伝いに来ていただくなど、かかわりを続けられるよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中での会話、行動、表情などから思いや意向の把握に努めている。また、家族などからも情報を得て、本人の気持ちになって支援できるよう努めている。	ご利用者とゆっくり過ごせる時間を作り、日々の意向を聞くようにしている。ｾﾝﾀｰ方式も使い、家族からの情報も頂きながら、個人記録やｱｾｽﾒﾝﾄｼｰﾄ・何でもｼｰﾄに記入し、職員間で共有している。少しでも食事ができる工夫や、外出できる方法を含めて、笑顔で生活できるように職員全員で検討を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などから聞き取りを行なっている。また、アセスメントシートを活用して生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に生活していく中で「できること」「できないこと」「わかること」「わからないこと」を見極め、利用者の生活リズムを把握できるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって何が課題か、どう暮らしたいのかを考えて、本人や家族の思い、意見を全職員がアセスメントシートに記入する。そこから得た情報や意見を反映して、介護計画書を作成している。	職員全員で話し合い、計画作成担当者が計画の原案を作成している。わかりやすい言葉で表現されており、散歩や買い物の他に、「職員と一緒に近くの喫茶店やケーキ屋に行って食事をする」等の楽しみも盛り込まれている。介護計画書以外に介護手順書も作成し、職員間で統一したケアが行われるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やおしゃべりノートに日々の生活状態や気付きなどを記録し、職員間で情報を共有する。モニタリング、介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特別な要望があればその都度検討し、出来る限り支援できるよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて、行政、民生委員、区長などとの交流、意見交換の場を設けている。また、地域の行事に参加したり、学童クラブと交流するなど、利用者が地域の人と触れ合い、楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力、利用前のかかりつけ医を継続し、本人が安心して医療を受けられるよう支援している。遠方の方は本人や家族に説明し、事業所の協力医療機関にしていただいている	職員や家族が通院介助をしている。協力医はいつでも相談に乗って下さり、受診結果についても家族と共有できている。医療面の勉強のため、ケア研究会に浦口医師に来て頂き、検査データの見方や症状、病気の勉強会も行われた。ホームでも、ホーム長がネット等で情報を集め、新薬等の勉強会を続けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と連携をとり行なっている。また、受診や先生への連絡がスムーズにいくように、日頃から協力医療機関の看護師と情報交換を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には家族と連絡をとったり、病院に訪問して病院関係者と情報交換をするなどして、利用者が安心して治療できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向、協力医療機関と連携を図りながら、事業所としてもどこまで出来るか模索し、全員で方針を決めて支援している。	入居時や体調変化時にも、ご本人や家族の意向確認をしている。「最期までホームで・・」と希望される方もおられ、適宜、家族、主治医、関係者等と話し合いを続けている。往診を受ける事が困難で、最後は病院に転院頂く場合もあるが、転院ギリギリまで食事などの工夫を行い、職員全員で精神誠意のケアを続けている。ホーム長と管理者が中心になり、主治医との意見交換も行われた。	訪問看護等の体制が整っていない地域でもあり、最期の看取りケアが難しい現状にある。今後も引き続き、福祉施設連絡協議会などで医療連携のあり方を確認していくと共に、主治医との意見交換を深めるためにも、協力医療機関の先生に講師を依頼し、勉強の機会を増やしていきたいと考えられている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応が出来るよう消防署の「普通救命講習Ⅰ」を受講しており、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は利用者一人ひとりの避難方法を訓練し、災害時の避難場所も把握している。地域の方には災害時の協力をお願いしている。	ご利用者と年2回の避難訓練をしている。居室の窓からの避難訓練も行われ、24年3月には消防署との訓練も行われた。災害時には施設協議会と連携を取る体制もあり、今後も消防団との協力体制を検討していく予定にしている。災害に備えて飲料水や食料を準備しており、近所の方にも災害時の協力をお願いしている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修やミーティングなどで、声のかけ方や言葉の使い方など職員間で話し合う。また、他の利用者への配慮や、利用者の思いを否定しないように注意して、人格の尊重、プライバシーの確保に努めている。	24年4月に職員研修を行い、再度、ご利用者本位のｹｱを行っていく事を周知徹底すると共に、ﾎｰﾑ長からも、声のﾄｰﾝに配慮し、相手を傷つけるような言葉かけをしないように伝えている。優しい職員が多く、日々の言葉かけにも気を付け、理念や介護計画に沿って、ご利用者の意向を大切にしたケアが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや趣味など、日常生活の中で把握に努め、自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間にとらわれず、その時の状況や状態によって、本人に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援している。また、家族に尋ねるなどして、その人らしい恰好が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者で一緒に調理や食事をしている。献立を考えたり、片付けなども一緒に行なっている。また、花見に行き外出先で弁当を食べたり、竹で作った器でそうめんを食べたりと、季節に合わせた食事を楽しんで頂けるよう工夫をした。	ご利用者と買い物に行かれ、地域の方から野菜などの差し入れを頂いている。ﾃｰﾌﾞﾙ拭きや食器洗い、ごぼうそぎなどの役割を増やしており、お茶を飲みたい時は、ご自分で準備されるなど、自主的に行動できる雰囲気が作られている。食事量の少ない方も職員が根気強く声かけし、食べて頂けるようになった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算表、水分補給チェック表で一人ひとりの摂取状態を把握し、支援に努めている。摂取困難な方には、食事量チェック表を活用し、代替品での摂取等で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声かけ、見守りをし、出来ない方には誘導や口腔ケアを行なっている。また、歯医者に行き、義歯の調整や洗浄を行なっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを調べる。それをもとにトイレ誘導をして、失敗を減らせるように支援している。	職員は個々の排泄感覚を把握している。下着(＋ﾊﾟｯﾄﾞ)着用の方もおられ、トイレ誘導を行う事でトイレでの排泄も増え、排泄の失敗も少なくなっている。夜も安眠を重視しながら、必要に応じてトイレ誘導をしている。羞恥心に配慮して、誘導時はさりげなく声かけし、トイレのドアを閉めるなどの対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を職員間で考え、水分補給や食事の工夫、軽い運動をしてもらい、自然排便が出来るように取り組んでいる。また、水分チェック表も活用して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯はある程度決まって支援しているが、希望があれば入浴できる体制を整えている。また、入浴剤や菖蒲湯など、入浴を楽しめるよう支援している。	ご利用者の希望に応じて１人ずつ入浴している。入浴を拒まれる場合も声かけを工夫し、ご本人が興味を持つような話をしながら、さりげなく浴室に誘導している。ご利用者の心身状況に応じて２人介助をするﾕﾆｯﾄもあり、入浴時は「昔は五右衛門風呂だった」「薪のお風呂だった」などの会話を楽しまれている。	車いすを利用されている方などで、現在ｼｬﾜｰ浴のみの方もおられる。できれば湯船にゆっくり入れるように支援していきたいと職員は考えており、今後も職員体制や福祉用具の活用などを含めて、検討を続けていく予定である。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯、起床時間は決まっておらず、その人の生活リズムで休息している。また、日中色々な活動(一緒に食事作り、散歩、運動など)をしたり、居室の温度や湿度を調整するなどして、安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人記録にファイルしており、職員がいつでも見れるようにし、理解や把握に努めている。また、副作用の理解にも努め、内服後は様子の変化も気をつけて観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや掃除など、その人の持っている力を引き出し、日々の生活で発揮してもらえるように努めている。また、生活歴を活かした楽しみ事として、ドライブや外食などをし、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中に楽しみや気分転換をしてもらうために、ドライブや散歩、地域の行事に行くなど外出する機会を作っている。また、個人の生活歴や希望の把握にも努め、個別の外出支援も行なえるよう支援している。	ご利用者はﾎｰﾑ周辺の散歩をされている。家族と一緒に散歩される方や、お墓参りや美容室にも行かれている。希望に応じて外食や買い物等にも行かれ、職員も一緒に喫茶店やケーキ屋での食事を楽しまれている。田植え見学にお連れしたり、鍾乳洞や柳の浜、季節の花見にも行かれ、「綺麗かね」と言う感動の声が聞かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を持っている人、お金を持ちたいと言われる方はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいと電話をかけたり、家族からの電話があり取り次いだりと、その都度対応できる環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、出来るだけ家庭的な物を置き、台所の音、食の匂い、季節の花を置くなど、利用者の五感に対して心地よい空間になるよう心がけている。	ﾎｰﾑ周りのﾌﾟﾗﾝﾀｰや花壇には、ﾎｰﾑ長が愛情込めて四季折々の花を育てており、ﾘﾋﾞﾝｸﾞのﾃｰﾌﾞﾙにはご利用者が活けた花が飾られ、季節を感じる事ができている。ﾎｰﾙや各居室には温湿度計があり、職員がこまめに確認し、ｴｱｺﾝや加湿器、除湿器の調整が行われている。一方のﾕﾆｯﾄでは、ご利用者同士の会話がしやすいように、ﾘﾋﾞﾝｸﾞのｿﾌｧｰの配置換えも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールソファやいす、玄関周りなどで一人で過ごしたり、他利用者と一緒に過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を持ち込んでいただき、本人が落ち着いて過ごせる居室になるよう配慮している。木製の家具や家庭用ベッドの設置、色柄の良い寝具の使用など家庭に近い物を使用している。	居室入り口には木製の名札ﾌﾟﾚｰﾄが掛けられている。自宅で使っておられた愛用の押し車、ｿﾌｧｰやﾃﾚﾋﾞの他、鉢花やアルバム、写真や時計を持参されている。季節の花を活け、ベッド周りに手作りのぬいぐるみを飾るなど、ご利用者や家族と相談しながら、居心地良く過ごして頂ける工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下幅、廊下両側の手すり、脱衣所や浴槽の滑り止めなど、安全確保と自立した生活が送れるよう工夫している。		